

# 論点

## ビッグデータ活用を

山本 太郎

長崎大教授(国際保健学)



これまで各国は、都市封鎖や経済活動の自粛といった強硬な措置を取ってきた。今後は活動制限による社会への影響と、活動を維持した場合の感染拡大に伴う医療への負担とを同時に最小化することが重要だ。

解決策の一つはビッグデータの活用だ。個人情報の保護を前

提として国民にインターネット上で健康状態を毎日入力してもらい、どういう年齢層や性別、地域の人で感染が拡大しているかを把握する。制限する対象地域や期間を細かく区切れば、社会への影響を最小化できる。

心配なのは、発展途上国だ。スラム街は住民が密集している。産業の多くがテレワークに対応しておらず、都市が封鎖されても生活のために仕事に出ざるを得ない。収束前に経済活動が再開されれば、感染が再拡大するため、食糧支援と併せて感染症対策を講じる必要がある。ビッグデータの活用も有効で、食糧や技術支援は国際社会の役割だ。 【聞き手・小川祐希】